

事前評価個表

事業名	国有林直轄治山事業 (復旧治山)	事業計画期間	平成21年度～40年度 (20年間)
事業実施地区名 (都道府県名)	<small>いさわがわじょうりゅう</small> 胆沢川上流 (岩手県)	事業実施主体	東北森林管理局 岩手南部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、岩手県南部の石淵ダムの上流に位置し、全域が栗駒国立公園に指定され、石淵ダムの下流には、平成25年度に多目的な胆沢ダムが完成予定である。林況は、広葉樹がほとんどを占めており、一部にスギ・ヒノキの人工林が点在している。</p> <p>当地区内の前川流域の山腹は、急峻な地形であり、また、尿前沢流域は、台地状地形が降雨等により侵食された急峻な溪岸となっている。</p> <p>地質は、新第三紀～第四紀の溶結凝灰岩、軽石凝灰岩や凝灰角礫岩などで構成されている。</p> <p>当地区は、平成20年6月に発生した岩手・宮城内陸地震の震源地に近く、地震により大規模な山腹崩壊等が発生し、荒廃面積は160haにおよび、溪床の不安定土砂量171万m³、崩壊残存土砂量589万m³があり、崩壊土砂による河道閉塞が発生し溪床には大量の土砂が堆積するなど大きな被害が発生した。</p> <p>このまま放置すれば、降雨等による出水により河床が上昇し、河道閉塞箇所を越流し溪床や山腹に残存する不安定土砂が流出し、下流の石淵ダムや新設の胆沢ダムに大量の土砂が流入し、ダム上流側の河床が上昇して河川氾濫の原因となり、下流域の人家等の保全対象に被害をあたえるおそれがある。</p> <p>このため、山腹崩壊地の不安定土砂が多い箇所や河道閉塞が発生するおそれがある箇所において、山腹崩壊地を山腹工によって土砂流出の抑制を図るとともに、溪床の不安定土砂や崩壊残存土砂が厚く堆積している箇所の下流において、谷止工を配置するなどにより、山腹工（土留工、緑化工）及び溪間工（谷止工）を組み合わせて土砂流出の抑制と森林の復旧を目指した総合的な対策を実施することとした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主な事業内容：溪間工 9基、山腹工 19.7ha(5箇所) ・主な保全対象：人家 1戸、市道 8,400m、林道 3,300m、橋梁 13箇所 		
費用対効果分析	総 便 益 (B)	2,561,318 千円	
	総 費 用 (C)	863,224 千円	
	分析結果 (B/C)	2.97	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性： 山腹崩壊斜面や溪床に大量の不安定土砂が堆積し、放置すれば山腹崩壊地や荒廃溪流から下流への土砂流出が懸念され、下流域の保全対象に大きな被害を及ぼすおそれがあることから、事業の必要性が認められる。 ・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法検討されており、事業の効率性が認められる。 ・有効性： 当事業の実施により、不安定土砂及び山腹崩壊斜面の安定が図られ、植生が回復することにより、不安定土砂の流出を抑制し、下流域の保全が図られることから、事業の有効性が認められる。 		

整理番号 5

便 益 集 計 表

(治山事業)

事業名：復旧治山
 施行箇所：胆沢川上流

都道府県名：岩手県

(単位：千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	225,017	
	流域貯水便益	34,779	
	水質浄化便益	46,512	
災害防止便益	山地災害防止便益	2,255,010	
総 便 益 (B)		2,561,318	
総 費 用 (C)		863,224	
費用便益比	$B \div C = \frac{2,561,318}{863,224} = 2.97$		